

# JCCNC NEWS

2007  
4



Japanese chamber of commerce  
of northern california  
北加日本商工会議所

1875 South Grant Street, Suite 760, San Mateo, CA  
Phone: (650) 522-8500 Fax: (650) 522-8300  
E-mail: mail@jccnc.org http://www.jccnc.org

Mr. Masazumi Ishii  
AZCA, Inc.  
535 Middlefield Road, Suite 100  
Menlo Park CA 94025



## シリコンバレーのインフラを活用 日系企業の発展促進のために

2007年6月より会頭

北加日本商工会議所 第1副会頭  
石井正純 (いしい・まさずみ)  
AZCA (アズカ) 社長

サンマテオ周辺からサンノゼまでの地域がシリコンバレーと呼ばれるようになったのは、トランジスタの発明者であるウィリアム・ショックレーが1956年、「ショックレー半導体研究所」をパロアルトに設立したのが始まり。以後マウンテンビュー、サンニール、サンタクララなどの市を中心として、半導体メーカー大手のインテルや最近世界で1億台を売った「iPod」のアップルコンピュータが設立された。同時にスタンフォード大学やUCバークレー、そのほか技術研究機関などの連携により、シリコンバレーはますます米国でIT産業の中心地となった。

新しい技術を駆使して研究開発を進める人々がこの地に集まり、起業家精神を発揮して事業を起こす。これら大企業に成長する前のベンチャー企業をサポートしたいという信念のために85年、シリコ

ンバレーで起業した石井正純 AZCA (アズカ) 社長が今年の北加日本商工会議所 (JCCNC) の第1副会頭に就任した。

### ◇シリコンバレーの活用

AZCA は日米のベンチャー企業を中心に国際的新規事業展開をマーケティング、技術提携、投資などの面で支援するコンサルティング会社。石井さんは20年以上、米国のベンチャー企業と共に仕事をして培われた経験と実績をJCCNCで生かしたいと考えている。

90年代始めの日本でのバブル経済崩壊以来、北カリフォルニア州の日本企業は減少した。JCCNCの会員企業数もそれとともに減少し、会員数の維持が大きな課題となっている。しかし、日本経済も近年回復傾向を見せ始めたとともに、日本企業の海外展開が、これから活発化

してくるとみるのが一般的な考えとなっている。その中で石井さんは、これから北カリフォルニア州に展開してくる日本企業には「もっとR&D(研究開発)、テクノロジーの促進をしていかなければならないのではないのでしょうか。その際にシリコンバレーはいろんな意味で活用できる場です」と話す。

具体的にはシリコンバレーに存在する、企業家精神が旺盛でハイテク技術を持った数々のベンチャー企業、スタンフォード大学などの学問機関やその他研究機関、そしてカリフォルニア州政府やベンチャーキャピタルによる積極的な支援という一地域でまとめ、積極的に連携する「オープンイノベーション」のモデルを日本で取り込めないものかと石井さんは考える。

「オープンイノベーションというテクノロジーに偏りがちですが、金融も含めた

### C O N T E N T S

特集/シリコンバレーのインフラを活用 日系企業の発展促進のために	1	JETRO ニュース / シリコンバレーを変えるM&A	9
投稿エッセイ/本にまつわる私の小史	3	カリフォルニア雑記帳 / ポテト・キングと呼ばれた男	10
投稿エッセイ/アクセシチュア 「アルカトラズからの脱出」 トライアスロンのご紹介	4	コミュニティーニュース	11
投稿エッセイ/Creating Maui Memories	5		
投稿エッセイ/ビデオゲームは世界中で親しまれている娯楽の一つになっていますが	7		

新しいサービス、ビジネスモデル、ソリューションがアメリカで生まれていますから、そういうものも活用して新規事業を育てる。そのためにアメリカの大学との連携だとか、アメリカのベンチャーとの連携だとか、アメリカの研究機関との連携が大事です」

オープンイノベーションの例を挙げれば、石井さんがエグゼクティブ・アドバイザーを務める **PARC(パロアルト研究所)** が当てはまる。PARCは以前は米国ゼロックス社の研究開発部門であったが、ゼロックス社のみでは活用しきれない数多くの研究開発を行ってきた。イーサネット、パケット通信、マッキントッシュの前身となったグラフィカル・ユーザインターフェース、マイクロソフトワードなどの技術は当時のPARCが開発した技術だ。しかし、2002年にゼロックス社から分離独立し、100%子会社となって以来、富士通や大日本印刷などの大企業と研究開発を行うようになったように、PARCの技術は、新しい事業または製品開発を目指す多くの企業によるアクセスが可能となった。

「今後、日本という国が何によって立国していくか。単に製造業でいいものを安く作るというフォーミュラだけではだめです。それより、もっと上流に遡って付加価値の高い技術を自ら開発していくことが必要であると思っています。それを実現するためにシリコンバレーをどう活用したらいいかという観点で考える。私の言っていることが全てではありませんが、JCCNCの他の方々のアイデアと合わせて、イノベーションというDNAをもっと日本企業に身につけてもらい、促進していくという意味ではAZCAでこれまでやってきたことが大きく生かされます」

### ◇シリコンバレーの新しい風

新しいハイテク産業が始まるシリコンバレーで、近年注目され始めた産業が環境問題に焦点をあてたクリーンテック産業だ。半導体に始まり、コンピューターソフトウェア、インターネット、ライフサイエンス、ナノテクノロジーと段階を踏み、カリフォルニア州政府の環境問題への取り組みが追い風となり、クリーンテック産業への投資が近年急激に増大している。

石井さんもいち早く環境問題に着目し、ノベンティ (NOVENTI) というクリーンテックのベンチャー企業に投資するベンチャーキャピタルにマネジングディレクターとして04年から参画している。

環境問題などの新しい技術の開発がスムーズに行われることもシリコンバレーならではの強みであると石井さんは考える。

「シリコンバレーではインフラが長い時間をかけて培われてきました。新しい波が来た時に対応できるインフラがすでに整っています。お金が入ってくれば、そのお金を使って新しい技術を開発しようとする人がたくさんいる。そういう人たちは単にアカデミックな研究開発だけではなく、実際にそれをどのように事業にしようか考えていますね」

### ◇西部会 (JWA) の復活を

北カリフォルニア州には、北加ジャパソサエティーなど日米間交流を目的とした組織がいくつか存在するが、ビジネスや経済だけに焦点を置いた組織はない。

80年代後半から90年代始めまで、西部会 (JWA) という日本企業と米国企業が

自由に日米の経済交流を盛り上げるための場を提供した組織があり、積極的に意見交換などが行われていたらしい。石井さんは、当時出席していた西部会を「下火になってしまったので、もう一回盛り上げたいと思っています。JWAは経済とビジネスをテーマにしていたのでJCCNCにフィットします。オープンイノベーションをどうやって実践していくかを議論し、日本企業成長戦略を促進したいと思っています」。

石井正純 東京大学工学部計数工学科卒業後、IBMに入社。IBMの派遣で76年スタンフォード大学の大学院にコンピューター・サイエンス修士号取得のため留学。この頃、シリコンバレーの発展を目の当たりにして、ベンチャー企業と一緒に仕事がしたい願望が石井さんの中で芽生えた。

81年、マッキンゼー & カンパニーに入社し、日米欧のクライアントに対し、特にエレクトロニクスの分野での多角化戦略、海外戦略などの経営コンサルティング活動を行う。しかし、ベンチャー企業のコンサルティングはマッキンゼーの枠組みの中ではできなかった。ベンチャー企業と働きたいという信念を貫き通し、85年に独立してAZCAを設立。05年より静岡大学大学院客員教授。新聞、雑誌での論文発表および日米各種会議、大学等でのシリコンバレーやクリーンテックに関する講演多数。

起業家精神について石井さんは「そのままマッキンゼーにいてもよかった訳です。同じ後悔をするならば、やらなかったことで後悔するより、一生懸命がんばって失敗するほうが後悔がないだろうという気持ち」と当時を振り返った。アサートン在住59歳。



**オンラインで注文可能！  
雑誌定期購読受付中！**

**KINOKUNIYA BOOK STORES**

**紀伊國屋書店**  
www.kinokuniya.com

**サンフランシスコ店**  
SF 日本町紀伊國屋ビル2階  
OPEN 10:30am-8:00pm  
1581 Webster St.  
San Francisco, CA 94115  
TEL: (415) 567-7625 FAX: (415) 567-4109  
E-mail: san\_francisco@kinokuniya.com

**サンノゼ店**  
ストロベリー・パーク内  
OPEN 9:00am-8:00pm  
685 Saratoga Ave.  
San Jose, CA 95129  
TEL: (408) 252-1300 FAX: (408) 252-2687  
E-mail: san\_jose@kinokuniya.com